ひすい

糸魚川市立ひすいの里総合学校

学校だより　６月号（No.５）

令和２年６月１９日発行

安心・安全のために

マスクの着用が推奨されて約４か月。子どもたちのマスク姿も板に付いたものです。４月の頃はマスク不足のために、長期にわたってマスクの調達ができるかどうか心配していたのですが、最近では不織布マスクが店頭に並ぶようになり、布マスクも普及して広く着用されています。マスクの目的は、ウイルスに感染しない、ウイルスを他の人に移さないことにあるのですが、この頃はおしゃれなものが続々と登場し、ファッションの一つとして周囲の目を楽しませてくれています。

さて、学校での新型コロナウイルス対策は、子どもたちが衛生的な行動様式を身に付けること、安心・安全な環境作ることの２つの側面から取り組んでいます。その一つが、活動後の手洗いです。ハンドソープを手のひらに取って、両手でこすり洗い、指を交互に組んで指間洗い、そして、手の甲、手首へと移り、30 秒以上かけてしっかり洗います。体育後、作業後、校外活動からの帰校時、給食前など、学校生活の様々な場面で実践しています。また、学習や給食では飛沫感染防止のために、ソーシャル・ディスタンスを保つ工夫をしています。子どもたち同士の間隔をとり、一方を向いて活動します。２ｍとはいきませんが、１ｍ以上は確保するようにしています。他にも、定時検温や換気、子どもたちが手に触れる箇所の消毒作業などを行っています。

今、社会では「新しい生活様式」での行動が呼び掛けられています。学校からも情報提供として、今月上旬に、家庭での取組についての文書を配付させていただきました。ご覧いただけたでしょうか。取組の内容は、①毎日の健康観察、②手洗いの励行、③咳エチケットの徹底、④３密の回避、⑤免疫力を高める、の５つです。詳細は配付文書を参照していただきたいのですが、以前であれば、インフルエンザなどの感染症が流行したときに強調される内容です。これらのことが、当たり前にできるようになると「with コロナ」の社会であっても、そうそう第２波、第３波の大波はやってこないような気がします。あまり神経質になる必要はないと思われますが、日々の取組が今の糸魚川、新型コロナウイルス感染者「ゼロ！」を実現しているのです。継続は力なり。

地域は、学びのフィールド！

【小学部：町探検】

６月 15 日（金）、梅雨の晴れ間、初夏のまぶしい日差しを浴びて小学部 18 名が「えびチーム」「ノンタンチーム」の２つの班に分かれて、市内大町の雁木通りへ町探検に出掛けました。事前学習で探検ルートやビューポイントを書き込んだ大きな地図を持ち、熱中症予防の赤白帽子に水筒を肩に掛けてのいでたちです。

「奴奈川姫がマスクをしているね。」「お店に熊のぬいぐるみが飾ってあったよ。」見慣れた街の風景の中に新しい発見がありました。「来た場所に、シールを貼っておこう！」90 分ほどの活動時間でしたが、汗をかき、五感をフル回転させて町を巡りました。

【中学部：ごみ拾いボランティア】

５月 26 日（火）に中学部８名で、学校周辺のごみ拾いのボランティア活動を行いました。各自がごみばさみ、ごみ袋を手に持ち、落ちているごみを丁寧に拾い集めました。この活動はこれが２回目で、前回は糸魚川市役所前の「亀が丘公園」でした。

「何でこんなところに爪楊枝が落ちているの？」「針金を拾ったぞ。危ないな。」一見、きれいに見える歩道ですが、よく見るとごみが落ちていました。

拾ったごみは学校へ持ち帰り、燃やせるごみ、燃やせないごみなどに分ける、ごみの分別学習に生かしました。

＜６・７月の生活目標＞

「やくそくを　まもろう」

「やくそく」は、自分と相手との間で交わされる「決めごと」です。人が快適に過ごす、あるいは互いが円滑に交わるために結ぶものと言えるでしょう。

今月は、新しい学年になって３か月目になります。子どもたちは４月からの新しい環境に慣れて、活動的になると同時に、気持ちに余裕が出てきます。そうすると、「これくらいはいいや」といういい加減さを発揮するようになります。文字どおりの「いい加減」であればいいのですが、できていたものができなくなるマイナス方向へと進みがちです。そこで、このタイミングで緩んだネジを締めるがごとく「やくそくを　まもろう」と子どもたちに呼び掛けるのです。

約束の中身は、学部や学級で共通するものであったり、個人目標的なものであったりとそれぞれですが、「～しない」ではなく、「～する」という肯定的で具体的なものとして、子どもたちに分かりやすく伝えていきます。